

発達障害・グレーゾーン

「就学前に身につけたい！」

幼児の

集団生活での
困りごとに

お母さんが
対応できる!



11と5分遊ぶだけ!

SST

(ソーシャルスキルトレーニング)

教材付



パステル総研

＝ 小冊子紹介 ＝

こんにちは！

子どもの発達グレーゾーンの悩みごとを、大人に持ち越さないことを目指すリサーチ機関・パステル総研です。

発達障害やグレーゾーンの正しい知識と対応を伝えることで、子どもたちが生きやすい時代をつくるきっかけづくりをしています。

実は今、幼稚園や保育園で困りごとが目立っている幼児が増えています。

先生から園での様子を聞いて、「どうしてわが子だけ皆と同じ活動ができないのだろう…」や「この先、できるようになるのだろうか」と悩んでいるお母さんがいるのではないのでしょうか。

発達障害・グレーゾーンの子どもは、もともと持っている脳の特性や発達が未熟なことにより、先生からの一斉への指示では動けないことや周囲の様子を見て自分もやらなくてはいけないことを理解することが苦手です。

ですから、「皆と同じ活動ができない」という困りごとになってしているのです。

さらに梅雨の季節は、室内での遊びが増えてトラブルが目立ちやすい時期。外で遊べないストレスがたまりやすかったり、4月からの新しい環境での生活に心身の疲れも出る頃です。

悩みや心配を抱えながらも、「もう少しで夏休みだし、家で様子を見よう。夏休みが明けたら成長と共に良くなっていくかも…」と様子を見ることにしようとしていませんか？

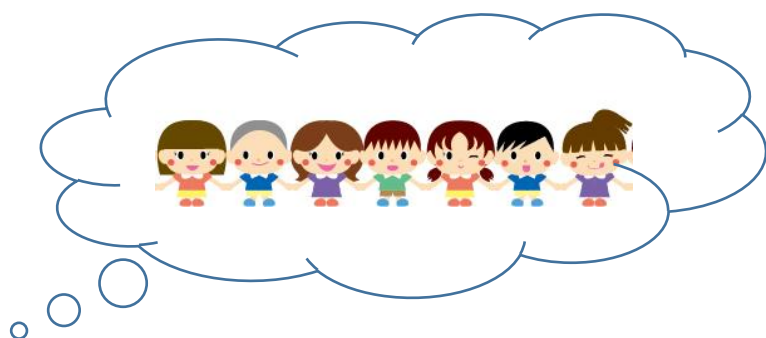
お子さんの困りごとは**SOSのサイン**です。ですから、子どもの成長を待つことはとても危険なことです！成長を待つのではなく、SOSのサインに応じて**子どもの発達を促す適切な対応**をすることが大切です。

お母さんが今から行動することでお子さんは**グングン伸び**ていきます。ただ成長を待つよりも1つ1つの小さな成長を実感しながら夏休み明けを迎えることができたなら、親子ともに笑顔で過ごすことができますね！

この小冊子では、「幼児期の集団生活での困りごと」を解消するために、お母さんがコミュニケーションを取りながらできる対応方法をご紹介します。

こちらで紹介しているものは全て、皆さんと同じように我が子に集団生活の困りごとがあるリサーチャーやトレーナーが実践している方法です。

ぜひ、お子さんの集団生活の困りごと対策に役立てていただければうれしいです。



＝ はじめに ＝



親子のコミュニケーションをスムーズにして
子どもの成長を加速する！「発達科学コミュニ
ケーション」代表の吉野加容子です。

私の専門である脳科学を生かしたコミュニケーション術で、
発達障害やグレーゾーンの子どもの発達を加速したい**凄腕ママを育成する**専門家です！

この小冊子では、発達障害・グレーゾーンの子どもの集団
生活の困りごとへお家でできる対応方法をご紹介します。

また、トレーナー・リサーチャーに興味をもたれた方のために
第6章で発達科学ラボの仕組みについて説明しています。

子育ての悩みを解決し、子どもの成長を引き上げるために
お母さんが学んだり働いたりできる場ですので、
ぜひご覧くださいね！

この小冊子をご覧いただいて、子どもの成長にプラスになる
働き方・生き方を考えるヒントにいただければとても
嬉しいです^^

＝ 目次 ＝

P. 1

小冊子紹介

P. 3

はじめに

P. 5

1. 就学前に前に身につけたい！
幼児の集団生活での困りごとから見える
子どもに必要なこととは？

P. 24

2. お母さんの心配がグッと減る！
集団生活に欠かせない子どもの○○力を
育てよう

P. 33

3. 「見る力」を育てるには
★発達障害の幼児の「見る力」を伸ばすお母さんの
魔法の声かけ

P. 43

4. 「聞く力」を育てるには
★指示が通らない！発達障害幼児の小学校生活が
不安なら「聞く耳」を作ろう！

P. 52

5. ソーシャルスキルトレーニング

P. 62

6. 発達科学ラボの仕組み
◆ 発達科学コミュニケーションとは？
◆ トレーナー・リサーチャーとは？
◆ トレーナー・リサーチャーになるには？
◆ 起業したい、フリーで働きたいママへ

P. 69

おわりに

NO. 1

就学前に前に身につけたい！
幼児の集団生活での困りごとから
見える子どもに必要なこととは？

就学前に前に身につけたい！ 幼児の集団生活での困りごとから見える 子どもに必要なこととは？

初めて集団生活を送るなかで子どもの困りごとに気が付いてきますよね。4月に「集団生活での困りごとに関するアンケート」を実施しました。その結果をお伝えします

- ・調査期間:2021年4月14日～4月18日(4日間)
- ・回答者 :パステル総研読者／トレーナーのメルマガ読者、
発達科学コミュニケーショントレーナー・リサーチャー 47名
- ・調査方法:インターネット調査

【目次】

1. 幼稚園・保育園での集団生活に困りごとを感じていますか？
2. 約9割の母さんが子どもの集団生活でのこまりごとが「ある」と回答！
3. 集団生活における困りごとは何？
～幼児期と小学校低学年の困りごとを比較～
 - ◆幼児期の困りごと
 - ◆小学校低学年の困りごと
4. 「自分にできることはやってみたい」と思う頼もしいお母さんが多いです！
5. 就学前にお母さんができること



1. 幼稚園・保育園の集団生活での困りごとを感じていますか？

幼稚園や保育園での生活が子どもにとっての初めての集団生活となりますね。

先生やお友達との関わりは子どもの成長にとってとても大切なことです。なぜなら、家庭では学ぶことができないことがたくさんあるからです。

しかし、いざ始まった集団生活の中で「うちの子どもは上手く生活できていないかも…」と集団生活の困りごとを感じているお母さんもいるのではないのでしょうか。

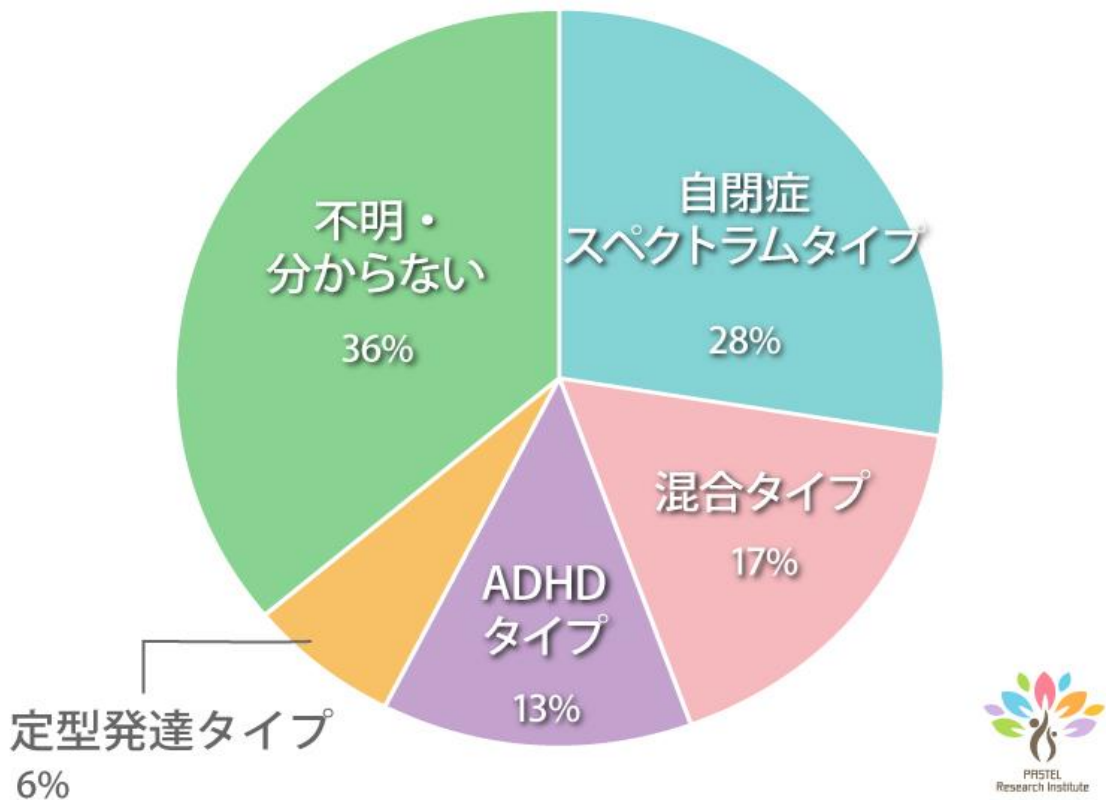
幼児期の集団生活で土台を作り、困りごとを失くして小学校入学へと準備したいですね。

そこで今回は、発達障害・グレーゾーンの子どもの「集団生活での困りごとに関するアンケート」を実施しました。

今回のアンケートにお答えいただいたお母さんのお子さんに関するデータをお伝えしていきます。
まずは子どもの発達タイプについてです。



◆子どもの発達タイプ(一つのみを選択)



お子さんの発達タイプは、

自閉症スペクトラムタイプ(ASD)が27.6%、
混合タイプが17.0%、
注意欠陥多動性障害(ADHD)タイプが12.7%、
定型発達タイプが6.3%、
不明・分からないが36.1%、となっています。

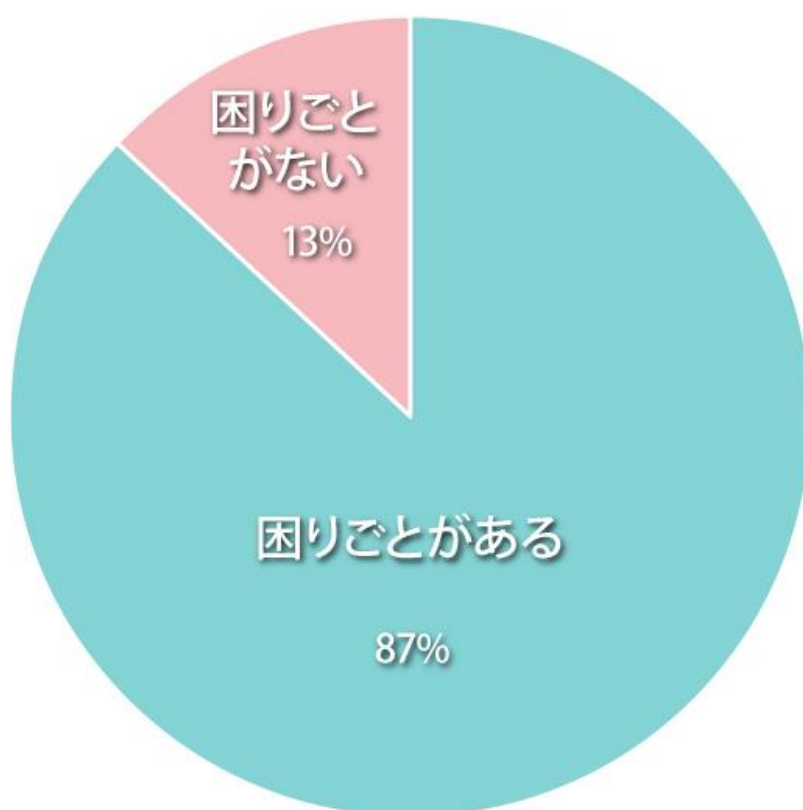
不明・分からないという回答が1番多いことから、発達に心配なところや気になるところがあっても発達支援センターなどの相談機関に行かれていない方が多いようですね。

主な特性としてASDは**社会性のつまずき**、ADHDは**行動面のつまずき**が挙げられています。

2. 約9割のお母さんが子どもの集団生活に ... 困りごとが「ある」と回答！

「お子さんが幼稚園・保育園での集団生活で困りごとを抱えているか？」お聞きしました。

なんと、約9割の方がお子さんが集団生活で困りごとがあると回答されました。



これは小学校低学年や高学年のお子さんを持つお母さんにも共通していることなんです。

つまり、年齢とともに子どもが成長して困りごとが少なくなるということではないということが分かります。

では、どのようなことが集団生活における困りごととしてあげられているのでしょうか。

3. 集団生活における困りごとは？ ～幼児と小学校低学年を比較～

.....

集団生活で特に人とのかかわりについての課題についてお聞きした結果をグラフにまとめました。

どのような困りごとが多いのでしょうか。アンケートの結果をお伝えします。

このアンケートは同じ時期に小学生のお子さんを持つお母さんにも行いました。

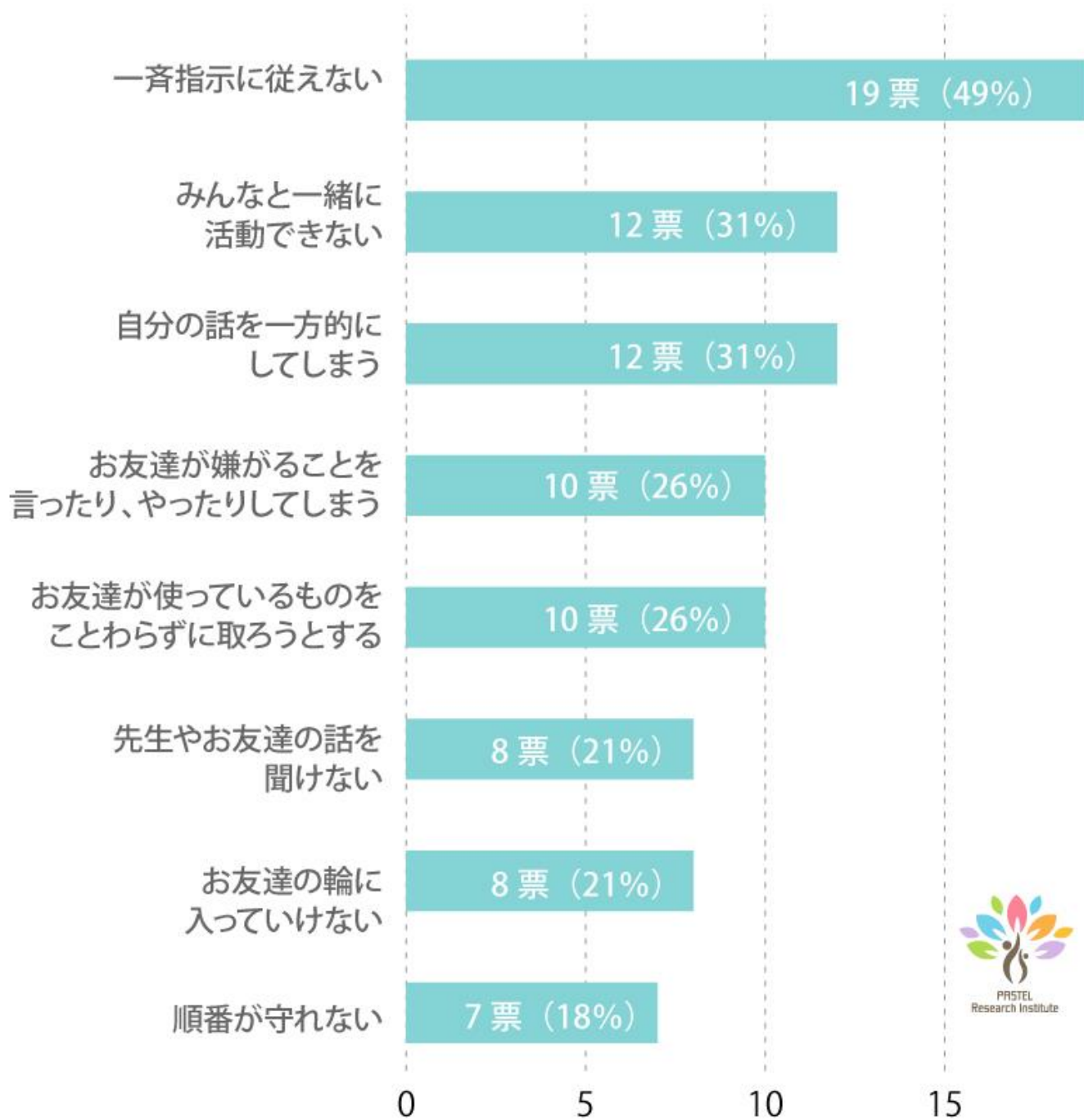
今回は小学校入学を控えたお母さんには特に知ってもらいたい小学生低学年の困りごとも掲載します。

- ・小学校低学年ではどのような困りごとがあるのか
- ・幼児期と小学校入学後には困りごとの課題に違いはあるのか

と、いった視点からも幼児期の困りごとへの対応を考えることができます。



◆幼児期の困りごと



- 第1位:「一斉指示に従えない」49%
- 第2位:「みんなと一緒に活動できない」
「自分の話を一方的にしてしまう」それぞれ31%
- 第4位:「お友達が嫌がることを言ったり、やったりして
しまう」
「お友達が使っているものをことわらずに
取ろうとする」それぞれ26%
- 6位:「先生やお友達の話を聞けない」「お友達の輪に入っ
ていけない」21%
- 7位:「順番が守れない」18%
- その他51%という結果になりました。

困りごとの上位は**行動面のつまづき**であることがうかがえます。

また、幼児期ということもあり、これからの園生活で**社会性を学んでいく**という点からも行動面での困りごとのほうが気になるということもあります。



以上をまとめると、特にお母さんが心配していることが

- やるべきことが理解できない
- 自分勝手な行動をしてしまう
- お友達関係の形成がうまくいかない



の3点をだということが分かりました。
幼稚園や保育園といった初めての集団生活の中で見えてきたお子さんの困りごとに、

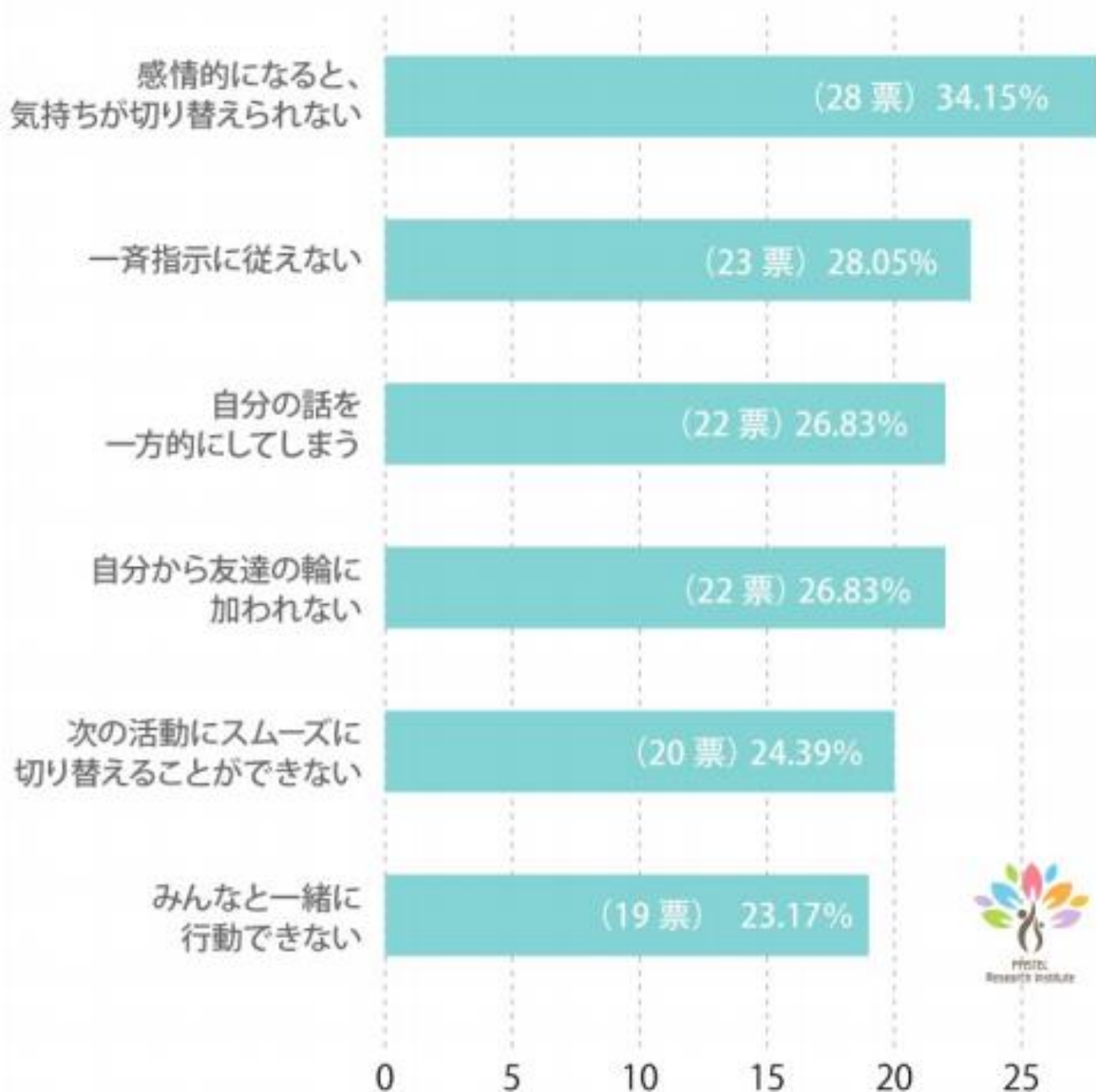
- 小学校に入学する前に良くなるのだろうか…
- 小学校に入学して環境が変わったらますます上手い
かなくなってしまうかもしれない…

などと不安を感じてしまいますよね。

それは、小学校生活が幼稚園や保育園の生活よりもさらに集団が重視されることや学習という新たな課題がでてくるからからではないでしょうか。

ですから、幼児期のうちにソーシャルスキルをみにつけて
集団生活でのこまりごとをへらすことは小学校生活をスムーズに送るためにも必要なことです。

◆小学校低学年の困りごと



- ・第1位:「感情的になると、気持ちが切り替えられない」34.15%
- ・第2位:「一斉指示に従えない」28.05%
- ・第3位:「自分の話を一方的にしてしまう」
「自分から友達の前に加われない」それぞれ26.83%
- ・第5位:「次の活動にスムーズに切り替えることができない」
26.83%

という結果になりました。



小学校に入るとこれまで以上に、

- ・先生の一斉指示を聞き取り行動すること
- ・周りと同じように活動を切り替えたり、一緒に行動したりすること

が求められます。

この2点がうまくできないことで、第1位の自分の感情を自分でコントロールして、気持ちの切り替えができないという新たな課題がでていいると考えられます。

以上をまとめると、小学校低学年のお子さんを持つお母さんが特に心配していることは、

- ・自分の気持ちや思いを感じ適切に行動する力
- ・他の人の気持ちに配慮して行動する力
- ・指示を聞いたりして周りに合わせて行動する力

といった、3点だということが分かりました。

◆幼児と小学校低学年、共通する困りごとが多いと判明！

幼児期と小学校低学年の困りごとの上位を比較してみました。



低学年

幼 児

	感情的になると、 気持ちが切り替えられない	34% (28 票)		一斉指示に従えない	49% (19 票)
	一斉指示に従えない	28% (23 票)		みんなと一緒に 活動できない	31% (12 票)
	自分の話を 一方的にしてしまう	27% (22 票)		自分の話を一方的に してしまう	31% (12 票)
	自分から友達の輪に 加われない	27% (22 票)		お友達が嫌がることを 言ったり、やったりしてしまう	26% (10 票)
	次の活動にスムーズに 切り替えることができない	24% (20 票)		お友達が使っているものを ことわらずに取ろうとする	26% (10 票)

「一斉指示に従えない」と「自分の話を一方的にしてしまう」は、幼児・小学校低学年に共通して困りごとの上位にランクインしました。

つまり、この2つは幼児期から小学生低学年まで引きずってしまう課題だということが分かります。

ですから、お子さんの成長を待って小学生になれば落ち着くかもという考えは、お子さんの**困りごとの解決を先延ばし**にすることになってしまっています。

発達障害のタイプや年齢にこだわらず、子どもの日頃からの様子から困りごとを把握し、**子どもの発達を促す適切な対応**をすることが必要ではないでしょうか。

ポイントはお母さんの**子どもの発達を促す適切な対応**です！！

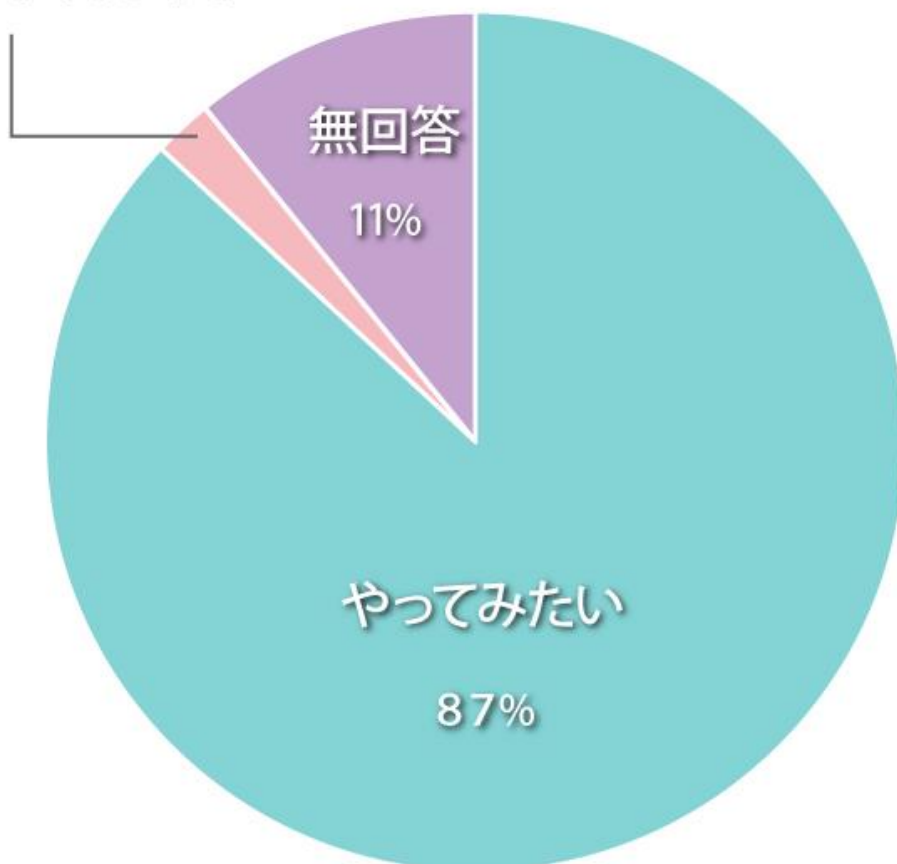


4.「お家でトレーニングをしてみたい」と 思っているお母さんは約9割！

.....

やってみたくない

2%



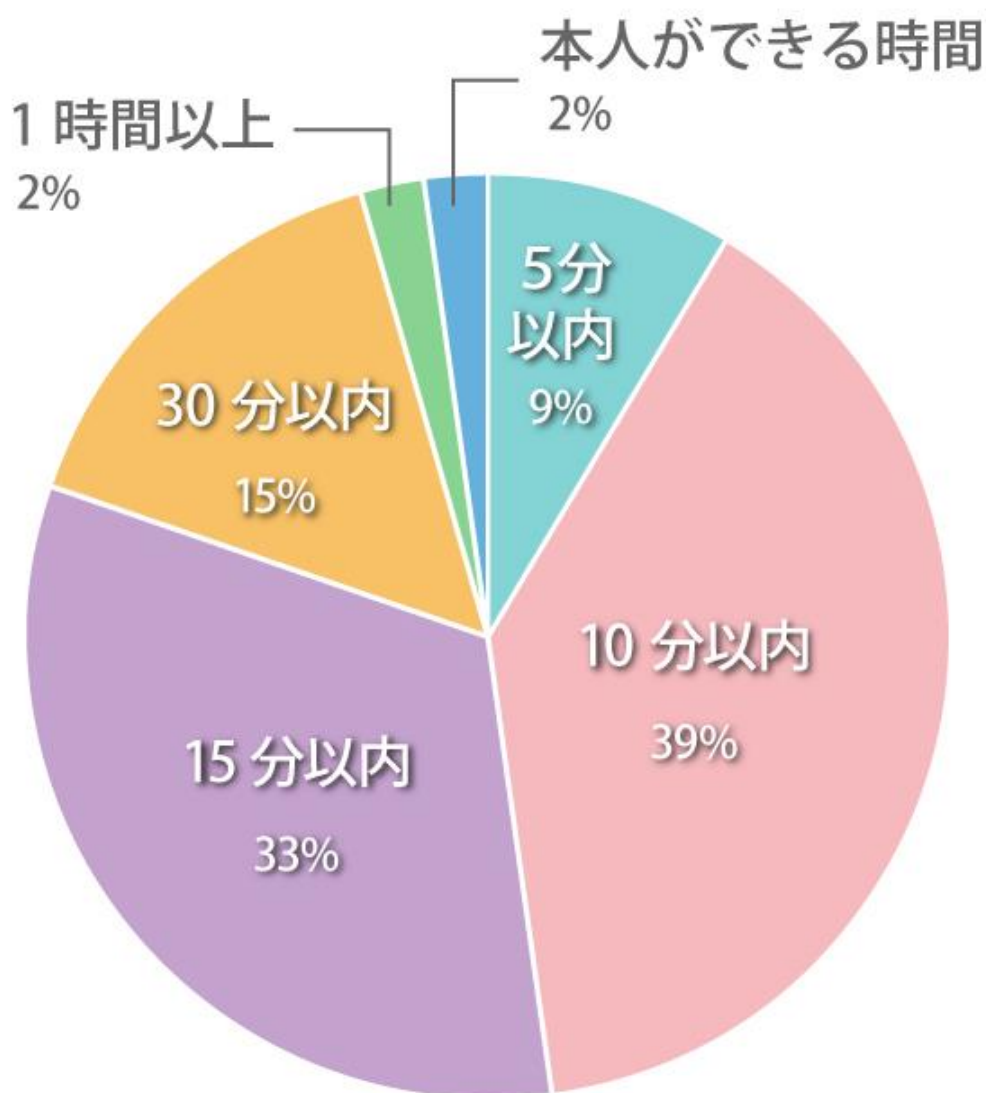
ここまでで、多くのお母さんが集団生活の困りごとを抱えていることや幼児期の集団生活の困りごとが小学校生活にも持ち越されてしまう可能性がうかがえます

そこで次に、「お家でお子さんの課題に対するトレーニングができるとしたらやってみたいか？」という質問の結果をお伝えします。

お家でお子さんの課題に対するトレーニングができるとしたらやってみたいと答えた方はなんと、**9割**もいらっしゃいました！

できることがあるのなら試してみたいという気持ちのあるお母さんが多いことがうかがえますね。

さらに、「もしおうちでトレーニングをやってみるとしたら、1日にどれぐらい時間が取れそうか」という質問をしました。



10分以内という方が約4割、15分以内が約3割という結果が出ました。

双方の大きな差はないことから5分から10分くらいの時間をトレーニングに取り入れられると**お母さんの気持ちも楽**に取り組めるのではないかと思います。

お母さん自身に負担のかかる時間のトレーニングでは**効率も効果も上がらず親子ともにしんどくなってしまう**ので、トレーニングの時間というのも大きなポイントになりますね。

実は、1日10分お家で行えるトレーニングがあれば…と思っているお母さんの希望にお応えしたトレーニングあるのです！

ですから、就学前にお母さんができることをして心配事を減らすことができます。



5. 就学前にお母さんができること

アンケート結果で、子どもの集団生活に関して9割ものパステルキッズのお母さん達が困りごとがあると感じていることがあることがわかりました。

実際に小学校低学年においても同じような困りごとが上位を占めていることから困りごとは**小学校生活が始まる前に解決したい**ことでもあります。

そして、パステルキッズのお母さん達はお子さんの困りごとを解決するためのトレーニングをご自身でやってみたいと思っている方が多いということが分かりました。

毎日の子育てに家事、さらには仕事をされているお母さんにとって時間を作ることは容易ではないはずです。

それでもわが子のために自分にできることがあるのならば10分でも15分でもやってみたいと思うことは、**お母さんがお子さんと向き合って前を見ている**という心強さを感じます。

集団生活での困りごとは**家庭という生活場所とは大きく異なる場所**での課題であり、保護者の目の届かないところで起こる困りごとです。

直接お母さんが関わることができない場所での困りごとだからこそ、**家庭生活の中でお母さんとコミュニケーションをとりながら自然と身につけて成長につなげていきたい**ですよね。

お家での肯定的な関わりをベースにして、幼稚園や保育園での集団生活がパステルキッズにとって過ごしやすいものになるために、そして、少しでも困りごとを減らして小学校入学への不安を軽くして、**楽しみながら環境が大きく変わる就学への準備を進めていきたい**ですね。

そこでこのたび、幼児期の集団生活における困りごとをお家でお母さんが短時間でトレーニングできる小冊子をリリースしました。

集団生活で必要とされるスキルを「ソーシャルスキル」と言います。

3章ではお家で身につけるためのソーシャルスキルトレーニング教材の一部を特別に紹介します

親子で笑顔で入学式を迎えるためにもぜひ、かつようしてみてください。

執筆者:さとう みな
(発達科学コミュニケーションリサーチャー)



自分も子育てに役立つ話題を発信したい！

オンライン個別相談

90分
無料

発達科学の専門家となって
自分にしかできない
子育てと仕事をスタートさせる

個別相談



パソコン スマホ タブレット があればお家から相談できます
お申し込みはこちらから

<https://www.agentmail.jp/lp/r/325/5960/>

スマホでリンクにつながらない場合は、ダウンロードしてからクリックしてください

NO. 2

お母さんの心配がグッと減る！
集団生活に欠かせない
子どもの〇〇力を育てよう



お母さんの心配がグッと減る！ 発達障害・グレーゾーンの幼児の集団生活に 欠かせない〇〇力を育てよう

乳幼児の発達はとても著しく、先生や友達との関わりが増える幼児期は集団生活の中で多くのこと身につけます。この時期に困りごとが分かったら、小学校生活も心配になりますよね。ここでは、発達障害・グレーゾーンの幼児に育てたいある力についてお話しします。

【目次】

1. わが子の集団生活での困りごとに悩んでいませんか？
2. 発達障害・グレーゾーンの幼児が集団生活で身につけた
いいこと
3. 子どもが身につけたい〇〇力を育てる方法



1. わが子の集団生活での困りごとに悩んでいますか？

あと約1ヶ月で夏休みですね。

この4月から入園して初めての集団生活が始まった子どももいれば、今年が園生活最後の年長さんというお子さんもいますね。

- 朝の会や帰りの会ではみんなで歌を歌い、ごあいさつをする

- 季節の工作やお絵かきをする

- かけっこ、お遊戯など行事に向けて練習し、本番を迎える

と、いったように様々なことを通じて、子ども達は心身共に成長して先生や友達との**コミュニケーション力もアップ**していきます。

子どもにとって幼稚園や保育園での生活は先生やお友達という新しい環境の中で、生活に必要な**コミュニケーション**を身につけていきます。

また、それぞれの学年でその年齢に合わせた活動や家ではできないような遊びを通して子どもはたくさんのことを学び、成長していきます。

しかし、この楽しいはずの園での生活で、初めて**我が子の困りごと**を感じて悩むお母さんが、実はとっても多いのです。

「うちの子どもはみんなと活動できない…」などと悩んでいませんか？

この4月に入園したお子さんならばまだ集団生活に慣れていないから」と思うこともできます。

しかし、子どもには新しいことを身につけて吸収していく力があります。

ですから、**お母さんが感じた違和感をそのままにしてはいけません**のです。

特に年長で困りごとがあると小学校入学が不安ですよ。

学校生活はより集団が意識され学習も始まるので、幼児期のうちにその**困りごと**による不安を解消して入学したいですよ。



2. 子どもが集団生活で身につけたいこと

親と離れて過ごす集団生活は家庭生活とは違い、子どもにとっても学びの多い時間です。

- 先生の話聞いて活動する
- みんなで同じ活動をする
- 相手の気持ちを考える
- 先生を介してお友達関係を築いていく

など、幼児期の3年間でたくさんのかことを身につけていきます。

そして、幼児期に過ごす集団生活で身につけたことが小学校生活の土台になります。

- 先生の話聞かないで好きなことをしてしまう
- 集団での活動を嫌がる
- お友達と上手く遊べない
- 気に入らないことがあると攻撃的になる時がある

など、このような行動が目立つようになると、「周りの子とは何かが違う…」と、なんとなく違和感を抱いてしまいますよね。

「もしかしてうちの子どもは発達障害かも？」と思うお母さんもいることでしょう。

これらの行動は「集団生活での困りごと」アンケートで上位に挙がったものに当てはまります。

- ・「一斉指示で動けない」
- ・「みんなと一緒に活動できない」
- ・「自分の話を一方的にしてしまう」
- ・「お友達が嫌がることを言ったり、やったりしてしまう」
- ・「お友達が使っているものをことわらずに取ろうとする」

などが、上位の困りごとでした。



この困りごとに、ただ「○○しなさい！」と子どもに声かけをして自然と子どもができるようになるものではありません。

これでは子どもが「怒られた」としか感じられず逆効果です。

ではどうしたら良いのでしょうか。

発達障害・グレーゾーンの幼児が○○力を身につけるための働きかけをして子どもの発達を促すことが必要です。

3. 子どもが身につけたい〇〇力を育てる方法

子どもが身につけたい力とは…「見る力」と「聞く力」の二つです。

- ・朝の会などのお集まりの時間に先生に「〇〇くーん」と名前を呼ばれたら「はい！」と返事をする

- ・「外遊びをするので帽子を被ります。」と言われたら帽子を被って外に遊びに行く

- ・先生が「折り紙で〇〇を折るので同じように折りましょう」と言ったら、先生を見て話聞きながら折り紙を折る

- ・お集まりや決められた活動が終わり、先生が「遊んでいいですよ」と言ってから好きなことをして遊ぶ

- ・先生やお友達が遊んでいる様子を見て自分も一緒に遊ぶ

など、この二つの力はどのような場面でも必要になります。



とても大事な幼児期の集団生活で1番最初に身につけた
いのが、**先生を見て、先生の話聞いて行動する**ことでは
ないでしょうか。

「集団生活での困りごと」アンケートで上位に挙がったお
母さんたちの悩みを解決するためにも…

「見る力」と「聞く力」を育てることが必要です。

特に発達障害・グレーゾーンの幼児は小学校入学が安心
してできるようにするためにも身につけたいですね。

この二つの力をお家でお母さんが短時間で育てる方法が
あります！

集団生活の困りごとだからお家ではできないと思ってし
まうかもしれませんが、まずは**お母さんと1対1でのコミュ
ニケーション力をup**させることが大切です。

親子のコミュニケーションで二つの力の土台を作りましょ
う。

土台ができることで子どもの**成功体験**が増えます。する
と、集団に入っても子どもが落ち着いて生活することが
できるようになります。



自分も子育てに役立つ話題を発信したい！

オンライン個別相談

90分
無料

発達科学の専門家となって
自分にしかできない
子育てと仕事をスタートさせる

個別相談



パソコン スマホ タブレット があればお家から相談できます
お申し込みはこちらから

<https://www.agentmail.jp/lp/r/325/5960/>

スマホでリンクにつながらない場合は、ダウンロードしてからクリックしてください

NO. 3

「見る力」を

そだてるには？



発達障害の幼児の「見る力」を伸ばす お母さんの魔法の声かけ

発達障害の幼児は「目と手の協応」に課題がある子が多いのが特徴です。見る力と手を動かす力のコンビネーションがうまくいっていないと、日常のあらゆる場面で困りごとが起ります。お母さんの工夫と声かけで鍛えることができますよ！

【目次】

1. 幼児期からしっかりお手伝いさせたいワケ
2. 家事は「目と手の協応」の宝庫！
3. 目と手の協応の特徴を活かせ！
好きなこと・得意なことで鍛えるべし
4. 発達障害の幼児の「見る力」がみるみる鍛えられる
魔法の一言



1. 幼児期からしっかりお手伝いさせたいワケ

発達障害の幼児を育てているお母さん、毎日お子さんにお手伝いしてもらっていますか？

私は、将来自立して生きていくためには、小さいころから
スモールステップで遊びの中で生活スキルを教えていく
のがいいと思っています。

正直なところ、生活自立にかかわることって面倒だな…
と思いませんか？

お洗濯、料理、買い物、片付け、掃除、ごみ出し、家計の管理。私は毎日「誰かがやってくれたらいいのに…」って思っています。

お母さんが面倒だと思っているものは、家族みんなが面倒だと思って当たり前。当然、「手伝って～！」と声をかけても当然スルーされてしまいます。

手伝ってくれたとしても、結局自分がやった方が早いし
キレイだし…と思いませんか？



という気持ちはごもっとも！でも、将来のためにも、発達を加速させるためにも、ぜひお手伝いをしてもらいましょう。

だからと言って、お母さんだけが頑張れば丸く収まる！という問題ではありません。

子どもの将来を考えると、生活スキルを一通り身に付けてから送り出したいですね。

私が18歳で一人暮らしを始めたとき、生活スキルはゼロ。

とても苦労した経験から、子どもたちには自分のことは自分で何でもできるように育てたいと思ってきました。

1つずつ家事を教えていくうちに、あることに気づいたんです！

あれ？家事って発達効果すごくない？

そうなんです！お料理、洗濯、掃除など、家事は脳の発達を加速させるのにとても効果的なんです。

- ・自分がやったほうが早いから…
- ・お願いしてもどうせやり直ししないといけないし…
- ・教えるのも面倒だし…

という気持ちはごもっとも！でも、将来のためにも、発達を加速させるためにも、ぜひお手伝いをしてもらいましょう。

小さいうちから、遊びの中で少しずつ家事スキルを習得させて、ルーティン化することで「自分ですること！」としていくのがおすすめです。

発達障害・自閉症スペクトラムタイプのお子さんは、毎日のルーティンが大好き。うまくルーティン化できると、お母さんも断然楽になります！

この記事では、どうして家事が発達に効果的なのかを詳しく解説するとともに、たった一言で発達効果を劇的に高める魔法の一言をお伝えしていきます。



2. 家事は「目と手の供応」の宝庫！

.....

どうして家事は発達に効果的なのか？それは、**目と手を同時に使う作業がすごく多いから**です。

- ・「ニンジンを見ながら」×「包丁で切る」
- ・「焼き具合を見ながら」×「ひっくり返す」
- ・「こぼさないように見ながら」×「食事を運ぶ」
- ・「汚れを見ながら」×「ふき取る」

などが、「見ながら」×「手を動かす」作業に当たります。

どうでしょうか？

家事のほぼすべてがあてはまりませんか？

この「見ながら手を動かす」という作業は、発達専門用語で「目と手の協応」といいます。実は発達障害・グレーゾーンのお子さんは、この「目と手の協応」を苦手とする子がとても多いのです。

- 見る力に課題があり、目から十分に情報を得られない
- 不器用で脳からの指令をうまく実行できない

などが原因として考えられます。

この「目と手の協応」に課題があると、

- 板書が遅い
- マス目や行に字が収まらない

など、**学業面にも影響が出てしまいます。**

知能検査のひとつであるウェクスラー式検査では、「処理速度」として数値化される項目でもあります。心配な方は併せて確認されるといいですね。



3. 目と手の協応の特徴を活かせ！ 好きなこと・得意なことで鍛えるべし！

.....

マス目に字が収まらないのも、床の汚れが残っているのも、
目と手の協応がうまくいっていないから。

原因は同じなんですよ、ということを解説しました。

この「原因が同じ」というのが大きな特徴です。私たち母親は、

- ・うまく書けていないノートを見て「ちゃんと書きなさい」
- ・汚れたままの床を見て「どうしてちゃんと拭かないの？」

と言って、苦手を克服させないと！と思いがち。

でも、目と手の協応がうまくいっていない、という原因は同じですから、別のことをやっても構わないんです。

この特徴をぜひ活かしてください！

ノートがうまく書けないけれど、クッキングには抵抗がないなら、いっぱい料理を作ってもらいましょう！



料理の中で**目と手の協応**が発達させられます。

掃除は苦手だけど、絵を描くのが得意！というなら、模写もおすすめです。

目と手の協応がかかわることは非常に多いので、お子さんの好きなことからアプローチすることができます！

「今見えているできていないこと・苦手なこと」を何とかしよう！と思わずに、別のことで鍛えられないか？と考えましょう。

お子さんの得意と苦手を知っているお母さんの腕の見せ所です！

4. 発達障害の幼児の「見る力」がみるみる鍛えられる魔法の一言

.....

「目と手の協応」というと、目と手、どちらからアプローチしようか迷われる方もいらっしゃるかもしれません。

オススメなのは目からアプローチすること！

今はスマホや動画など目から情報を得るのが主流の時代ですから、幼児期から見る力をしっかり鍛えておくのがおすすめです！

また、目と手の協応は目から得た情報を脳に送り、脳が手に指令を出す、という流れ。

そもそも目からの情報が不十分だと手を鍛えてもうまくいきません。

それは、お母さんの声かけ！お母さんのたった一言で幼児の見る力が伸びるのです！

見る力を鍛える方法としてビジョントレーニングがありますが、それよりももっと効果的なことがあります。

ぜひ、「**よお～～く、見てごらん！**」と声をかけてあげてください。声色を変えて「よお～～く」に力をこめることで、お子さんが自然とみるべき部分に注目できるようになります。

発達障害の子どもがうまく目から情報をゲットできない理由として、じっくり細部まで見れていないことが考えられます。

お母さんの一言で、自然と見ることに意識が向くのです！

決して「ちゃんと見るよ！」などど、短い声かけで済まさないようにしてください。お母さんが「よお～～く」と言っている時間が子どもが注目している時間です。

お子さんの様子を見ながら進めてくださいね。



執筆者:丸山香緒里
(発達科学コミュニケーションリサーチャー)

自分も子育てに役立つ話題を発信したい！

オンライン個別相談

90分
無料

発達科学の専門家となって
自分にしかできない
子育てと仕事をスタートさせる

個別相談



おうちで

夢を叶える
チカラを
手にしたい方！

パソコン スマホ タブレット があればお家から相談できます
お申し込みはこちらから

<https://www.agentmail.jp/lp/r/325/5960/>

スマホでリンクにつながらない場合は、ダウンロードしてからクリックしてください

NO. 4

「聞く力」を

そだてるには？



指示が通らない！発達障害幼児の小学校生活が不安なら「聞く耳」を作ろう！

指示が通らず行動が遅い発達障害幼児の子の小学校入学に、不安を感じていませんか？小学校生活をスムーズにするためには、聞く力が必須！そして聞く力をつけるためには、まず「聞く耳」を作るのがポイントです！

【目次】

1. 指示が通らず行動が遅い発達障害の子の小学校入学が不安ではないですか？
2. 発達障害幼児に指示が通らず行動が遅いワケ
3. 発達障害幼児に指示が通るようになる鉄則はこれ！



1. 指示が通らず行動が遅い発達障害の子の 小学校入学が不安ではないですか？

新しいクラスでの生活も3か月が経ちました。お子さんの様子はどうですか？

先生から園での様子を聞いて、「わが子が先生の指示を聞いて活動できない…」と悩んでいませんか？

特に、来年の春には小学校入学を迎えるお子さんを持つお母さんにとっては深刻な悩みですよ。

幼児時代とがらりと変わる学校生活に、「このままで大丈夫かしら？」と不安を感じている方もいらっしゃるかもしれません。

小学校生活では、

- 先生の話をきちんと聞けるか
- 先生の指示に従い動けるか

というところが、学習面も含め生活全般がスムーズにいくかどうかのポイントになりそうです。



ただでさえ、新しい環境に入り不安な時に先生の指示が理解できないことで、**不安感が増したり、まわりについていけずに自信をなくしたりするのは避けたい**ところです。

特に、運動会や遠足などの行事が始まると、指示を聞き漏らさず、集団に遅れずに行動することが求められる場面が増えますので、早めに対策したいですね。

ここでは、指示を理解してスムーズに行動に移せるためにはどうしたらよいか、考えてみます。

2. 発達障害幼児に指示が通らず行動が遅いワケ

幼児のお子さんは、お母さんの指示を聞いて行動に移せていますか？

お母さんとのコミュニケーションで指示が通らず行動が遅い場合、小学校で先生とのコミュニケーションでもつまづいてしまう可能性があります。

発達障害やグレーゾーンの幼児は、お母さんが指示をしたときに、全く聞いていない、または、自分の世界に入っていて耳がシャットダウンされている感じで反応しない場合などがあります

脳の特性上、聴覚に機能的な問題があるわけではないのに、**言われたことに注意を向けて聞く力が弱い**、ということがありえます。

自分に向かって言われていることを、瞬時に聞き分けて理解する力が弱いのです。

さらに、**ネガティブな情報はずっと耳に届きにくい傾向**があります。

ママの指示は、子どもにとって、耳が痛い指示のことが多いので、子どもが無意識にシャットダウンしている可能性があります。

そういえば、「おやつたべなさーい」などの子どもがうれしい指示は、たいていずっと届きますよね！

では、子どもにとって、たとえ聞きたくない指示でもずっと届くために、どのような工夫が必要でしょうか。



3. 発達障害幼児に指示が通るようになる 鉄則はこれ！

.....

子どもに指示をする場面について、流れをみてみましょう！

◆まず、聞く耳を作る！

まず、子どもの耳を「聞く耳」状態にしてあげる声掛けが必要です。

ママとしては、注意や指示の声掛けをしたい場合であっても、決してネガティブ感を出さないのがポイントです。

笑顔でやさしい声で「ねえ、●●ちゃん！」と近づいて、肩に手を置きます。

子どもの脳は、言葉の中身よりも表情や声色の方が先に処理される傾向がありますので、何を言うかよりもどんな感じで話しかけるかの方が大切です。

このような声掛けをすることで、まず子どもが「聞く耳」を持つ状態になります。自分に話しかけられているとわかりやすく、またポジティブな声掛けは届きやすいからです。

◆さらに笑顔で指示を伝える

そのうえで、さらに**笑顔で指示を穏やかに伝えます。**

「そろそろお風呂入ろうか～」

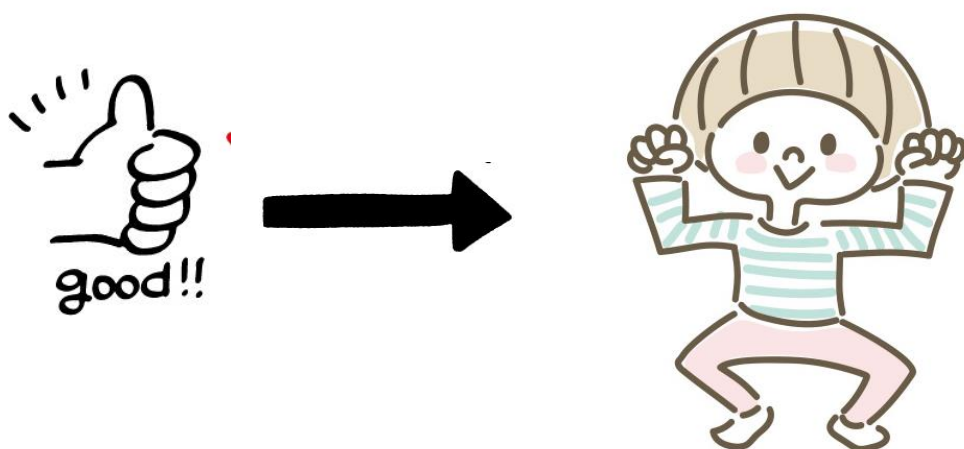
「お風呂に入るのと、歯を磨くのと、どっち先にする？」

「お風呂入ったら、好きな本読んでから寝ようか。」

など、指示をする際には、**選択肢を与える指示やご褒美を使った指示**が効果的です。

選択肢を与えることで子どもが選んで動きやすくなりまし、ご褒美があると行動したくなるからです。

子どもが行動しやすくなるような指示の出し方がポイントになります。



◆指示に従うそぶりを見せたら、すかさず褒める！

そして、指示に従うそぶりを見せたらすかさず褒めましょう！

指示に従ってずっと動くと褒められる(=すぐに動くのは良いこと)という認識を、子どもに定着させることができます！

脳(聞く力を担当する部分などを含む)は、使えば使うほど発達するという特徴があります。

ですので、ママの指示を聞ける経験を積みば積むほど、子どもの聞く力自体が伸びていきます。

お家で聞く力自体をアップさせておけば、小学校で先生が子ども全体へ一斉指示を出した場合でも指示に従えるのです。

発達障害幼児の「聞く耳」をつくって聞く力を伸ばし、小学校生活にそなえましょう！

執筆者:三島希実
(発達科学コミュニケーションリサーチャー)



自分も子育てに役立つ話題を発信したい！

オンライン個別相談

90分
無料

発達科学の専門家となって
自分にしかできない
子育てと仕事をスタートさせる

個別相談



パソコン スマホ タブレット があればお家から相談できます
お申し込みはこちらから

<https://www.agentmail.jp/lp/r/325/5960/>

スマホでリンクにつながらない場合は、ダウンロードしてからクリックしてください

NO. 5

ソーシャルスキル トレーニング

★ 【見る修行】

★ 【聞く修行】



目 標

しっかり見る練習をする

見る修行のポイント

- ①子どもの好きなキャラクターを利用するなど、より子どもの目が向きやすい工夫をしましょう。
- ②ボキャブラリーが少ない子どもでもわかるような答えを準備しましょう。
- ③簡単にゲーム感覚でできるので、ウォーミングアップとして他のSSTと併用してもOKです。

目的とねらい

- 不注意傾向がある子どもでは、注意力を持続させることが難しく、話している人に注目できない場合があります。また、他者への関心が薄い特性を持つ場合、どこに注目したらいいかわからなくなることがあります。
- 集団活動において、意識して話している人に注意を向け、注目することは重要なスキルです。
- 簡単にゲーム感覚で楽しくやることで、「見る」ことの大切さを意識させることができます。

注意すること

- じっと見てもらうには、子どもに興味を持たせることが大切です。
- 慣れてきたら、椅子によい姿勢で座らせながらやるなど、他のスキルも合わせてトレーニングするとよいでしょう。

SSTの実際

① どちらの手に入ってる？

ピンポン玉、おはじき、輪ゴムなどを左右の手に移動させ、どちらの手に入っているかを子どもに当てさせる。



どちらの手に入ってる？



お子さんの答え

*** 応用編 ***

お母さんが左右に動いたり回転しながらやる、考えている間に手を動かすなどを行うと難易度が上がります。

② どこに入っているでしょうか？

紙コップを数個準備して、さかさまに机の上に置き、消しゴムやビー玉などを1つのコップに入れて紙コップを並べ替える。どの紙コップに物が入っているかを子どもに当てさせます。

*** 応用編 *** 紙コップの数を増やすと難しくなります。

③ ジョーカーが出た！

子どもと向い合わせで座り、「ジョーカーが出たら教えてね」と言ってトランプを1枚ずつめくっていきます。ジョーカーが出るまで集中してトランプを見ておくトレーニングです。



ジョーカーが出たら教えてね

----- * 応用編 * -----

トランプの数を調節すると難易度が調節できます。

④ これはなんでしょう？

段ボールを2枚準備し、間を少し開けて並べ壁を作る。壁の後ろで、絵カードやモノを素早く動かし、すき間から見た子どもに当てさせる。



これは何でしょう？

----- * 応用編 * -----

すき間を狭くする、動かすスピードを速くすることで難易度が調整できる。

目 標

人の話を、最後までしっかり聞く練習をする。

目的とねらい



不注意傾向がある子どもでは、注意力を持続させることが難しく、人の話を最後まで聞けない場合があります。

小学校に入ると集団への一斉指示を聞く必要があります。集団活動において、話している人に注意を向け、話を最後まで聞く重要なスキルです。

いくつかの音が同時に鳴っている時に、必要な音だけを選んで聞く練習になります。

簡単にゲーム感覚で楽しくやることで、「聞く」ことの大切さを意識させることができます。

SSTの実際

① スリーヒントクイズ

- 3つのヒントを出し、それから連想されるものをこたえるクイズです。
- 途中でわかっていても、3つ目のヒントを聞いてから答えるようにします。
- 語彙が少ないお子さんの場合、答えが分かる難易度の問題を準備しましょう。
- 1つ目・2つ目のヒントで答えが分かるような問題を出すと、答えが分かっていても3つ目のヒントが出るのを待つ必要があるので、*問題の例*「待つ」スキルも伸ばすことができ難易度が上がります。



① 食べ物です

② 赤くて丸いです

③ 最初に「り」がつきます



A

答え：りんご

お子さんの答え





① 食べ物です

② 色は黄色いです

③ 最初に「ば」がつきます

例 2

答え：バナナ



① 動物です

② 耳が大きいです

③ 鼻が長いです

例 3

答え：ゾウ



① 動物の仲間です

② 木登りが得意です

③ 「ウキー」と鳴きます

例 4

答え：サル



① 食べ物です

② 外側は緑色と黒色です

③ 中を切ったら赤いです

例 5

答え：スイカ

他にもいろいろと考えてみてくださいね。お子さんの興味やレベルに合わせて問題の難易度も変えましょう！

② ステレオクイズ

いくつかの音が鳴っている状態で、必要な情報を聞き取る練習です。

レベル 0

まずは静かな状態でお母さんの言う言葉をこたえる。
はじめは1単語、慣れてきたら2単語、3単語と増やす。
「今から言うよ」と言わずに突然言ったり、単語と単語の間を空けて話すとレベルが少し上がる。

レベル 1

歌の入っていない音楽を鳴らしながら、お母さんの言った言葉を聞き取らせる。聞き取る単語を増やす、単語同士の間隔をあけて問題を出す、「今から言うよ」と言わずに突然言う、などでレベル調整できる。

レベル 2

歌（声）の入っている音楽を鳴らしながら、レベル1と同様のことをやる。また、お子さんが好きな曲を流すのもOK。（歌が入っていたり、好きな曲だと気を取られるため聞く修行になる。）

レベル 3

家族など協力者が数人いれば、何人かで違う単語を言って、だれが何と言ったかを当てる。



* ステレオクイズの例 *

レベル 0 - 2 (レベルによって音楽をかけたりしながら)



今からゲームをします。
まず、お母さんがある言葉言うので、
それをよく聞いて、なんて言ってたか
教えてください。

いつ言うかわからないから、しっかり
聞いててね。

・・・カラス

お子さんの答え



そう、正解です！
ちゃんと聞けてすごいね。
つぎは、2つの言葉言うよ。

・・・めだか、スイカ

お子さんの答え



また正解！！すごいね。
じゃあ、次はいつ言うかわからないから
しっかり聞いててね。

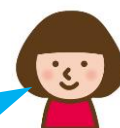
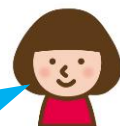
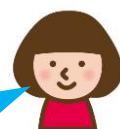
お母さんが「答えは？」って言ってから
教えてください。

・・・りんご・・・フライパン
・・・うま。
答えは？3つあるよ。

お子さんの答え



すごいね!!全部正解です。



レベル 3



今からゲームをするよ。
お母さんとお父さんが違う言葉を言います。
それぞれがなんて言ったか当ててね。
じゃあ、聞いててね。



カエル



みかん

(父母、息を合わせて同時に)

お子さんの答え



(わからない場合) わからなかったら、
「もう 1 回お願いします」 って言ってみようね。
難しいなら、はじめはお母さんが言ってる
言葉だけをよく聞いてごらん。



カエル



みかん

(父母、息を合わせて同時に)

お子さんの答え



(答えられたら) すごいね！！
両方正解！よく聞けてたね！

※言葉の選択としては、お子さんがよく知っている言葉を選ぶ。また、似たようなことば(「からす」と「かえる」、「りんご」と「だんご」など)を選ぶと少し難易度が上がる。

※うまく聞き取れなかった場合は「もう 1 回お願いします」などと言ってもよいことも一緒に伝えるとよい。

NO. 6

発達科学ラボの仕組み



ゼロから発達科学をマスターできる！

1. 発達科学コミュニケーションとは？

.....

発達科学コミュニケーション(発コミュ)は、**お母さんが普段の声かけを変えるだけ**の子育てメソッドです！

ママが忙しくても続けられるし、子どもの協力もいらないからカンタン♪たった4回のレッスンで、ママの一言で子どもの脳を動かす接し方が身につきます！

講師から、動画やオンラインで講義を受けるので、本を読むより簡単で、わかりやすく学べます！しかも、学んだことを**お家で即実践**できるので、お子さんの成長もどんどん進みます！

発コミュで子育ての悩みが解決できたら、発達科学ラボではトレーナー・リサーチャーとして、さらに学びを深めていくことができます！



2.リサーチャーって何？

発達科学の勉強をゼロから学べるのがリサーチャーです！

すべてオンラインで受講できるので、家にいながら講義を受けることができます。

- ✓ パステル総研の記事を書いたり、
- ✓ アンケート調査をしたり、
- ✓ 教材開発をしたり。



収入を得たい人は、**学びながら、裏方の在宅ワーク**をすることができます！リサーチャーは仕事をしない選択も自由で、**学ぶだけでもOK**です。

リサーチャーとして学んだ後、自信がついたらトレーナーとして起業することも可能です！

3.リサーチャーになるには？

発達科学ラボの上級講座を受講すれば、リサーチャーになります！

発達科学コミュニケーションのメソッドだけでなく、**発達科学をゼロから学びたい人や、お子さんに合わせた発達サポートをもっと勉強したい人**向けです。

リサーチは、ゼロから学んでいるママが大半ですが、臨床心理士、保育士、特別支援教諭、医師、看護師などの専門家の方々も学ばれています。

仲間ができること、困ったらすぐに相談できるメリットが好評です！

4. トレーナーって何？

お子さんの特性を研究して専門知識がついたら、**起業をして発コミュを教える講師の仕事**をすることができます。

年齢や発達タイプによって、トレーナー独自のポジションをつくるので、ハードルは高くありません。

家にいながら、自分のペースで社会貢献になる仕事ができます！

- ✓ 集客、
- ✓ 相談の受け方、
- ✓ 発コミュの教え方、

これらをマスターしていきます！



5.トレーナーになるには？

リサーチャーと同様に、発達科学ラボの上級講座の受講でトレーナーになれます。

トレーナーも在宅でできる仕事で、お子さんと関わる時間を減らさずに、むしろ、**発達科学を武器にできる子育てに有利な働き方**です！

リサーチャーから始めて、自信がついてからトレーナーに進むこともできます。起業するカタチになるので、月商7桁に到達しているトレーナーもいます。

発達科学ラボ

トレーナーコース

リサーチャーコース



6. 起業したい、フリーで働きたいママへ

発達コミュニケーターやリサーチャーは、発達障害やグレーゾーンの子育てをするママを、専門的にサポートする新しい職業です。

発達サポートは本来、子どものためだけでなく、お母さんや家族のストレスも取り除くものであって欲しい！

お母さんには、後悔のない子育てをして欲しいですし、自分と家族の人生を豊かにする「発達」の仕事をしてほしいという願いもあります。

だからこそ、私が目指したのは「ママの味方になる仕組み」です。

働く時間と場所を自由に決められる働き方で、子育てに余裕も得られし、収入も得られる。

今まで難しいと思っていたことが、職業の選び方を変えるだけで、一気に可能になる。

子育てに有利なライフスタイルを得たい人は、ぜひ個別相談にお越しくださいね！
お話しできることを楽しみにしております。



自分も子育てに役立つ話題を発信したい！

オンライン個別相談

90分
無料

発達科学の専門家となって
自分にしかできない
子育てと仕事をスタートさせる

個別相談



パソコン スマホ タブレット があればお家から相談できます
お申し込みはこちらから

<https://www.agentmail.jp/lp/r/325/5960/>

スマホでリンクにつながらない場合は、ダウンロードしてからクリックしてください

＝ おわりに ＝

いかがでしたか？

幼児期のパステルキッズのお母さんの90％が感じている
集団生活の困りごと。

集団での困りごととあって、園での生活や先生の指導のもとで
しだいと子どもが身につけていくしかないことと思われがちです。

しかし、お母さんとの1対1のコミュニケーションを大切に
して丁寧に関わることで、集団生活の困りごとを少しずつ解
消できることを理解していただけたのではないでしょう
か？

パステル総研を運営する発達科学ラボでは、発達障害グ
レーゾーンのお子さんの子育ての悩みを解決し、発達をぐ
んぐん加速させるためにお母さんが学んだり働いたりでき
る場があります。

ぜひこの機会に、お母さん自身も楽しく学んで、お子さん
に背中を見せていきましょう！



＝著作権について＝

法的事項

本教材および収録されているコンテンツは、著作権、知的財産権によって保護されていることはもちろんですが、購入ダウンロードされたコンテンツは、あなたの子育てに役立てる途に限定して提供しております。

教材に含まれているコンテンツを、一部でも、書面による許可（ライセンス）なく複製、改変するなどして、またあらゆるデータ蓄積手段により複製し、オークションやインターネット上だけでなく、転売、転載、配布等、いかなる手段においても、一般に提供することを禁止します。

2021年6月

Copyright©2021-パステル総研

